

第2章 かつしか観光を支える内部環境

1. 葛飾区の観光レクリエーションの特性

この節では、観光振興を着実に進めるために、葛飾区が持つ観光資源の特性と、葛飾区を訪れた来訪者からみた現状と課題についてまとめ、かつしか観光の強さと弱い部分を把握します（参考：「葛飾区観光基礎調査報告書」平成17年度）。

（1）葛飾区の観光資源の特性

伝統・文化財等の歴史資源が多い

伝統・文化財等の歴史資源が多く、その内容は神社や仏閣、文化財や名木等となっています。史料価値の高いものが多く分布するとともに、古くから受け継がれる伝統芸能を継承している人たちも区内各所に在住しています。

河川・公園等の自然資源については、水元公園や堀切菖蒲園、江戸川河川敷、荒川河川敷など、水辺の親水性を楽しめる資源が多くあります。

都市系資源については、体育館や図書館など地域住民に日常的に開放されている公共的サービスが多く挙げられます。また、かつて盛んであった玩具産業等の地域産業を伝えるセキグチドールハウスや郷土と天文の博物館、教育資料館など、地域の生活・文化を伝える施設が挙げられます。

イベント等については、神社での例大祭や節分、大×縄づくり等古くから続く年中行事や、区内各地でのサンバカーニバルや菖蒲まつり、さくらまつり、納涼花火大会など、地域に密着した話題性のある資源が多くあります。

柴又駅周辺、堀切菖蒲園周辺等に集積がみられる

資源の集積については、伝統・文化等の歴史資源の多くが、柴又駅・新柴又駅周辺、堀切菖蒲園駅周辺に立地しています。また、柴又駅周辺および水元公園周辺は、多くの資源が集積しているとともに、国・都等において観光資源として位置付けられている資源も多く、ある程度認知度の高い主要観光エリアとなっています。

鉄道駅から観光資源へのアクセスは、東部・西部エリアで良好である

鉄道駅から概ね徒歩約 10 分圏として半径 500mの円を図示すると、柴又駅、新柴又駅を含む東部エリア、堀切菖蒲園駅を含む西部エリアについては、駅からの徒歩圏内に多くの資源が集積しており、区内からも区外からもアクセスしやすくなっています。

一方、南部エリアと中央部エリアは、鉄道駅が分布しているものの資源が分散しており、また北部エリアについては鉄道駅がなくバス交通による移動が中心となるため、観光資源へ訪れにくくなっています。

旧街道や河川沿いなどに資源が分布している

観光資源は、区内各所に点在していますが、新中川や江戸川等の河川沿いや、岩槻街道・新水戸街道等の新旧街道筋等に一部分布がみられます。しかし、それらの結びつきが弱く、区内を回遊する来訪者は少なくなっています。



(2) 葛飾区への来訪者からみたかつしか観光の現状と課題

以下では、柴又・水元公園・堀切菖蒲園への来訪者を対象に実施した調査の結果から、葛飾区の観光に対するイメージや区内での行動、課題等についてまとめます。

「葛飾区の観光＝柴又」というイメージが強い

葛飾区の観光名所として思い浮かぶのは、「柴又」が圧倒的に多く、葛飾区の観光の魅力でも、柴又に関連の深い「寅さん・両さんなどのキャラクター」が最も多く挙げられています。これは区民を対象とした調査（「葛飾区観光基礎調査」）でも同様の結果が出ており、ここでも「葛飾区の観光＝柴又」というイメージが強いことがわかります。特にこのイメージは区民よりも区外からの来訪者において強くなっています。「水元公園」や「堀切菖蒲園」が持つイメージは、「柴又」と比較して弱くなっています。また、「柴又」における区内消費額の平均は「水元公園」や「堀切菖蒲園」よりも高くなっています。

区内移動を容易にするとともに案内表示の充実を求める声が多い

来訪者から「不便である」と指摘されている点として、「区内の移動が不便」が最も多く挙げられています。このことは、調査対象となった来訪者のほとんどが区内の他の観光スポットへ移動していないという結果にも表れていると思われます。

「区内の移動が不便」に次いで、「案内表示が少ない・わかりにくい」「トイレが少ない」「観光情報を事前に収集しにくい」「観光窓口など情報を入手できる場所が少ない」の順に多く指摘されており、これは区民調査でも同様の結果となっています。

区民は「区の広報誌」、来訪者は「テレビ」「インターネット」から
情報を入手している

情報の入手については、「何も見なかった」(26.8%)人以外は、何
らかの方法で事前に観光に関する情報を入手していますが、区外から
の来訪者や来訪回数が少ない人からは、「観光情報を事前に収集しにく
い」という指摘が多く挙げられています。入手方法は、区民は「区の
広報誌」、来訪者は「テレビ」と「インターネット」が多くなっていま
す。

区外からの来訪者は台東区へ立ち寄っている

区外からの来訪者の約3割が葛飾区を訪れる前後に区外に立ち寄っ
ており、立ち寄り先は、台東区(浅草・上野等)が多くなっています。

